



DBKだより

第25号
2021年4月20日
ドン・ボスコ基金

Moved by hope
See,
I am making all things new
Rev 21:5

希望に つき動かされて

見よ、
わたしは万物を新しくする

黙示録 21章5節

Strenna
2021 ストレナ
サレジオ家族 年間目標

サレジオ会総長
アンヘル・フェルナンデス・
アルティメ神父



コラッジョ!!
Coraggio!!
©Guri Suzuki

トピック

エチオピア ドン・ボスコ・カトリック初等中等学校Ziwayからの支援のお願い／**ブラジル** 養護施設・ユースセンター・学校の子どもたちと家庭を支援／**ローマ** クリスマスのメッセージとご支援の感謝／**日本** カトリック浜松教会 ドン・ボスコ学習支援グループの活動／**フィリピン** 児童養護施設「ハウスオブジョイ」／**日本** 子どもたち・青少年の居場所 ハッピーハウス／**ペルー、ボリビア** コロナ禍による混乱のなか学校・保育園の事業を継続

恩人の皆さまへ

お元気でいらっしゃいますか。新型コロナウイルスの感染拡大が止むことなく続いておりますので、皆さまのことを案じております。

世界に目を向けますと、コロナの脅威に加え、様々な困難に遭遇している人たちがいます。最近アフリカのシエラレオネ（スーザンベイ）では、大火災が発生し、密集した500以上の粗末な家屋が灰と化し、600人以上の未成年者を含む5,000人以上の人びとがすべてを失くしました。

またナイジェリア（エノグ州）では水の水質問題があります。人びとは小さな茶色かった小川に依存し、その小川を飲用、入浴、洗濯、調理のための唯一の水源として利用してきました。現在、新しい井戸の計画が進められており、これまでの水系感染症による女性と乳児の死亡率を減らすのに役立ちそうです。ユニセ

フによると、ナイジェリアはアフリカでは2番目に経済力を誇る国ですが、1日を1ドル未満で生活する人が1億人以上という極端な貧困率があり、この1年間でさらに悪化しているようです。

以上、未だDBKとは直接的な繋がりはありませんが、サレジオ会が関わるアフリカの2か所を紹介しました。このようにサレジオは世界の134か国において若者たち（特に貧しい若者たち）に寄り添って生きています。

皆さまへの感謝のうちに、今回もいくつかのDBKと繋がりのあるご報告をさせていただきます。今後とも皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまのうえに神の祝福とお恵みがありますようお願いいたします。

2021年4月

DBK [ドン・ボスコ基金] 代表 濱口 秀昭
(サレジオ会日本管区長)

エチオピア ドン・ボスコ・カトリック 初等中等学校Ziway からの支援のお願い



ドン・ボスコ・カトリック初等中等学校 Ziway で学ぶ生徒たち

AETエチオピア準管区 管区長

Fr. Hailemariam Medhin SDB

ドン・ボスコ・カトリック初等中等学校Ziway 校長

Br. Endrias Demissie SDB

ドン・ボスコ・カトリック初等中等学校Ziwayは、首都アディスアベバから117km離れた地方都市にあり、その中心部から南西2kmの所に位置しています。1986年後半に設立され、初等中等学校(1年生から12年生)を運営しており、すでに大きな成果を生み出しています。

この学校は、東シェワオロミア地区にあり、この地域の貧しい生徒に質の高い教育を提供するモデル校です。現在、1,395人の生徒、51人のスタッフ、7人の協力者がいます。政府、NGO、各地の教会からの社会的支援の努力によって、この学校の教育は大変多くの子どもや若者に利用されています。

ドン・ボスコZiwayの共同体は、知性と身体の両面において人格を形成することに主眼を置き、全力で取り組んできました。そして、私たちは正式な教育をもって、多くの社会的・経済的な開発活動を実施してきました。

現在、学校内で新型コロナウイルス感染症を予防するために、15台のコンピューターと機材が緊急に必要になっています。しかし、財政的制約のために私たちの共同体だけで調達することは非常に困難な状況に

あります。

ここは人口49,416人の小さな都市で、国の他の地域では、さらに多くの緊急課題があります。現実的な要望に応えるために、私たちが必要な物資を調達することが非常に困難な状況にあります。

私たちの将来の計画は、社会的・学術的要件に対応していくことです。具体的には、社会的・経済的な開発問題に取り組む際に、次の事柄を目標としています。

A.教育の発展に貢献する。

B.知識を習得することで地域の行動や態度を変革する。

C.恵まれない子どもたちや貧しい子どもたちを支援し、彼らの社会的幸福と健康を改善する。

今回の支援をお願いしたい具体的な内容は、学校内で新型コロナウイルス感染症の蔓延を防ぐために、初等中等学校にコンピューター機器を拡充するための必要な総費用15,728ドルです。

どうぞご検討ください、このプロジェクトを達成するためのご協力とご援助をお願い致します。

ブラジル 養護施設・ユースセンター・ 学校の子どもたちと家庭 を支援



支援物資を子どもたちと家庭に届ける様子

イエスのカリタス修道女会ブラジル準管区 管区長 シスター マリア 浦川

ブラジルでは新型コロナウイルスの終息はまだほど遠く感じられ、緊張と不安の生活が強いられており、日に日に犠牲者が増えて苦しい試練が続いています。貧困地域の方々の、なす術もないような極限状態に心が痛みます。

せめて私たちがお預かりしているラール・サントアントニオ養護施設・ユースセンターの子どもたちを守るために、シスターたちは基本的な食料品を集めて届けています。届けるたびに、その子どもたちが住む周辺の家にも少しでも援助ができればと願いながらも、私たちができることには限度があり、心苦しく感じています。

同じように、カリタス・サン・マテウス校でも、オンラインの授業を実践するために、たくさんの問題を抱えています。また、食を求めて校門に集まるオラトリオの子どもたちの面倒を見ています。

いつ終わるかわからない、先の見えない新型コロナウイルスとの闘いにある私たちは、2020年7月24日、扶助者聖母マリアの記念日に、修道会の総本部を通してドン・ボスコ基金からの支援金50万円がブラジル準管区に届けられるとのお知らせを受けました。私たちの祈りを聖母マリア様が取り次いでくださったことを喜び、感謝の祈りを捧げました。

ドン・ボスコ基金よりいただいた支援金で、ラール・サントアントニオ養護施設・ユースセンターの子どもたちの家庭に基本的な食料品を準備して、恩人からいただいた野菜、果物と一緒に配布することにしました。

また、新型コロナウイルスのためにユースセンターが閉鎖されて以来、家に閉じこもっている子どもたちのための教材を購入することを計画しました。

8月には父の日を祝うので、家庭でお菓子を作るために材料を届けました。

9月にはうつ病や自殺予防のために生命を大切にすることについてのお話をし、トウモロコシとレタスの苗を配り、各家庭に家庭菜園ができるようにしました。

10月は子どもの日を記念して、プレゼントにお菓子袋をとどけることを企画し、子どもたちの喜ぶ顔を楽しみにしながら準備を始めています。

このように、今年の終わりまで、私たちは食物、教材、洗浄剤(当施設で作るアロエベラ石鹸)を届け続け

ます。

養護施設の11名の子どもたちのうち、2名は特別なニーズのある子どもで、特別対応が必要です。家族との絆を強めるためにインターネットに頼っていますが、町から5キロ離れた田舎なので、たびたびインターネットがよく機能しません。早く子どもたちが家族と直接会える日が来ることを願っています。

ドン・ボスコ基金を通して私たちに支援してくださった方々の愛のこもった寛大なご寄付は、私たちにとって、この試練を乗り越える力になりました。大きな喜びと感謝をこめて、ブラジルの子どもたちとともにお礼を申し上げます。

皆様に神様の豊かな祝福がありますようお祈りいたします。

心からの感謝をこめて。



ローマ クリスマスのメッセージ とご支援の感謝



サレジアン・シスターズ ローマ本部総財務
シスター ヴィルマ・タッローネ
FMA財務スタッフ一同

* * * * *

親愛なる皆様、クリスマスおめでとうございます。
主は今ここに、私たちの間に住んでいらっしゃるに
ます。

このことはクリスマスの驚嘆に値する出来事であり、
私たちの人生と日々の歴史を照らす良い報せです。

私たちは、今日の悲劇的な毎日の出来事において、
愛する人が去っていくという悲しみの中で、病院に
いる友人たちがおそらくそこから二度と戻ってこない
という悲しみの中で、苦しんでいるすべての家族、す
べての共同体のそば近くにいます。

私たちの食卓には、この出来事によって引き離され
てしまったために空席となった場所がありますが、愛
は死よりも強いので、天において再び彼らと出会うこ
とができるという希望はより強くなっています。

教皇フランシスコが2020年11月22日のお説教の
中で「私たちの人生を永遠にするのは、具体的な身体
を使った慈善のわざです。」とおっしゃいました。自問
してみましょう。

「私は困っている人のために何かをしていますか？」
「私はお返しが出来ない人を助けていますか？」「私は貧
しい人の友人ですか？」

『私はそこにいます!!』『私はそこであなたを待っ
ています』とイエスはあなたに言っています。

あなたが想像したこともない場所、おそらくあなた
が見たくない場所、そこにいる貧しい人びと……私は
そこにいますと。

このために、私たちは生き生きとした希望を持ち、
信じ、働き、自分自身を与え続けているのです。

* * * * *

今回、皆様からいただいた寛大なご寄付は、新型コ
ロナウィルスによって、貧しくされた多くの人びとと共
有することができました。エクアドル、中央アメリカ、
アマゾン、マリ、トーゴ、カメルーン、コートジボワール、
レバノン、ベトナムなど。

シリアは、暴力の悲しみ、踏みにじられた権利のた
めに最も心にかかるところです。

そのため、皆様のご寄付により、私たちはダマスコ
の郊外に5,000㎡以上の土地を購入することができ
ました。次のステップは、学校の建設が開始するまで、
侵入者から土地を保護するために塀を建設すること
です。

もう一つの良いニュースは、東ヨーロッパ管区がウ
ライナのキエフに3番目の支部を建設することを決定
しました。戦争で荒廃したこの国では、約10%の子ど
もたちしか学校に行くことができません。それで新た
な土地を探し、学校を建設しなければなりません、
それは社会と教会の未来でもあります。

ですから、私たちは死の翼(コロナや紛争)がその
ペールを広げている時代に生きていても、私たちの中
にいらっしゃる主イエスのいのちは、私たちをさらに前
進させ、私たちを小さく貧しい人びとについて考えるよ
うに促します。

皆様が私たちとともに分かち合い、働いてくださる
ことに感謝します。

皆様お一人お一人のため、またご家族の必要と天国
に旅立たれた方々のため、私たちの祈りを約束いたし
ます。

主のご降誕のお慶びを申し上げますと共に、2021年
は良い年になりますよう心からお祈りいたします。

日本 カトリック浜松教会 ドン・ボスコ学習支援 グループの活動



コロナ禍で感染予防をしながら勉強

カトリック浜松教会
佐藤 伊三久
サレジアン・シスターズ
シスター 大西 いく子

私たち浜松教会の「ドン・ボスコ学習支援グループ」の活動には、「特別クラス」と「ドン・ボスコグループ」があります。どちらも外国籍児童を対象とした日本語の家庭学習を支援するものです。ほとんどの子どもたちは日本で生まれ育ち、日本の公立学校に行っていますが、保護者が外国籍で家庭では母国語を中心の生活の中で、家庭での学習のサポートが困難であるところから教会での学習支援が生まれました。

「特別クラス」は小学生、中学生が対象で、授業は毎土曜日と日曜日に教員免許保持者の指導のもとに2時間を4回行っています。学力の育成を強化し、授業の理解を深めるためにマンツーマンできめ細やかな学習サポートを実施しています。浜松外国人子ども教育支援協会に指導委託し、委託料を個人負担と当グループが支援しています。場所も浜松教室(カトリック浜松教会信徒会館)と磐田教室(カトリック磐田教会祈りの家)の2か所で、参加人数は15名～20名、専門の指導者が10名ほどで行っています。高学年や中学生の進路指導も行い、それなりの成果もみられています。もう一つの「ドン・ボスコグループ」は同じように外国籍

児童の学習支援ですが、ここに通うほとんどの子どもたちの両親は共働きで、子どもたちが家に帰っても学校の勉強を教えてくれる保護者がいなく、夕方の時間に子どもたちに宿題を見てほしいとの要請を受けて3年前にスタートしました。週3回夕方6時から7時45分まで、浜松教会司牧センターで小学生15名ほどに宿題を中心として学習支援を行っています。先生はすべてボランティアで、シスター、信徒の有志、近隣の善意の方、20名ほどが交代で、参加できる曜日に勉強の補習に当たり、近くのミッションスクールの高校生も週に1度来てくれます。昨年からはコロナ禍の影響を受けて学習面だけでなく、生活面でのサポートもしています。

昨年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で子どもたちの生活もいろいろな面に影響が出てきています。保護者の現金収入が減り、学習支援に通うのが難しくなっている子どもも少なくありません。学習面だけのサポートだけでなく、生活面の援助も必要になって来ました。子どもたち一人ひとりに物心両面でのサポートの必要を考えています。

2つのグループそれぞれに、皆様からいただきましたご寄付を有効に必要なに応じて使わせていただきます。温かい寛大なご支援、本当にありがとうございました。これからもドン・ボスコと同じ精神をもって子どもたちや青少年の必要に答えるよう、努めてまいります。



学習支援の特別クラスの様子

フィリピン 児童養護施設 「ハウスオブジョイ」



コロナ禍のため施設内で自習するハウスオブジョイのこどもたち



ビーチで元気いっぱいジャンプ!

ハウスオブジョイ 澤村 信哉

皆様、ご支援
ありがとうございます。
います。フィリ

ピン、ミンダナオ島の児童養護施設「ハウスオブジョイ」です。1997年以来、同地域で、家族と一緒に暮らせなくなったこどもたちを引き取り、育てる活動をしてきました。火災が起きたり、創設者が亡くなったりと、大変な時期もありましたが、多くの方の支援のおかげで、なんとかこどもたちの笑顔を守ることができています。

ですがまた、新しい試練の時がやってきました。新型コロナウイルスです。幸いにもここが高温多湿の地域であることと、都市部からかなり離れた田舎であることで、村に感染者はほとんどいません。しかし、対策のための厳しい移動制限や学校の対面授業禁止などによって、私たちの生活も大きな変化を強いられています。

規制は感染状況に合わせて強化されたり緩和されたりするのですが、厳しい時にはこどもたちは敷地内から出ることもできません。なので、「敷地内でできる楽しいこと」をいろいろ考えました。パンを焼いたり、絵描き教室をしたり、敷地内に「秘密基地」を作ってそこでキャンプのように寝泊まりしたり、みんなでメイクしてゾンビ映画を作ったり。こどもたちの「ごっこ遊び」が、クリエイティブな趣味につながればいいな、と思っています。

学校も今年度は完全に対面授業禁止で、こどもたちは通学する代わりに、学校から配られる自習教材をうちでやっています。この教材が難しすぎたり、そもそも問題が間違っていたり、ネットで調べるのが前提だったりと、なかなか大変なのですが、せっかくのチャンスなので、実験をしたり、天体観察をしたり、日本の英会話学校とオンラインで交流したりと、活動中心の学びの時間を作り、「勉強って案外楽しいかも」と少しずつこどもたちの意識も変わってきています。

私たちの施設は日本から「遊びに来てくれる」方々の滞在費で成り立っていた部分が大きいの、厳しい移動制限でビジターが1年以上いない今の状況はなかなか大変ですが、スタッフもこどもたちも、敷地内で野菜を育てたり、壊れたものは自分たちで工夫して直したりと、「節約生活」をむしろ積極的に楽しんでくれています。

ようやくフィリピンでも医療従事者へのワクチン接種が始まりました。「元通り」までにはまだ時間がかかるでしょうが、将来こどもたちが笑ってこのコロナ時代を思い出せるように、たくさんの楽しい思い出を作りたいと思います。

日本 子どもたち・ 青少年の居場所 ハッピーハウス



新型コロナウイルス感染防止のため一緒に食卓を囲むのは難しい状況ですが、キッチンカーで食事をお届けする新しい試みにチャレンジ!

サレジアン・シスターズ シスター 宮澤 直子

ドン・ボスコ基金を通して、ハッピーハウスの活動にご支援くださる皆様に心から感謝いたします。特に今

年は、コロナ禍にあって皆様のご支援に大きく支えられました。

VIDES JAPANは、ボランティア活動の一つとして、通称「ハッピーハウス」と呼ばれる“子どもたちや若者たちが共に過ごす居場所づくり”の活動を東京都北区で行っています。

通常は、毎週火曜日と木曜日の夕方から夜にかけて、地域の小学生、中高生やその保護者がやってきて、スタッフの青年たち、シニアスタッフ、シスターたちと一緒に、宿題や遊び、夕食作り、そして夕飯を食べ、楽しくおしゃべりが弾む家族団らんのような憩いのひとときを過ごしていました。互いの悩みを相談したりとみんなの“安心できる居場所”でした。しかし、今回の新型コロナウイルスの感染防止の対策として、ハッピーハウスは、使用している部屋が狭いことから、通常の活動は2020年3月から休止せざるを得なくなりました。緊急事態宣言以後、どのように子どもたちやその家族を支えていけるのか、絶えず悩みながら道を模索してきましたが、2020年4月からは各家庭に食糧支援(米や野菜、その他の食材)を行う形で、子どもたちや保護者に会うようにし、またハッピーハウスのグループLINEで、互いに励まし合うように声掛けなどを行ってきました。

子どもたちや保護者からは再開を望む声が寄せられていますが、なかなか状況は厳しく再開できずにいます。しかし、子どもたちやご家族の様子を見て、せめて年が明ける前に、1度互いに会える機会をもてるなら、何よりもそれが互いの支えになると判断し、感染予防対策をしっかりと行った上で、広い場所を借りてクリスマス会を行いました。

子どもたちや保護者の喜ぶ姿と互いに力をもらっている様子は一目瞭然でした。

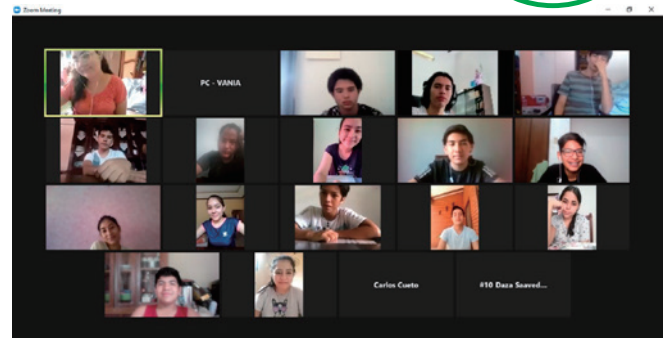
しばらくはまだ新型コロナウイルスの影響は続くでしょう。この1年間、私たちスタッフは悩みに悩み、どうしたらみんなが少しでも安全に集えるのかを考えてきました。そして、今、私たちは新しい動きを始めようとしています。それはキッチンカーです。ハッピーハウスの子
どもたちをはじめ、生活に困窮している人たち(特に外国籍の方)に食事支援を



ハッピーハウスのキッチンカー

行います。今は、まず3月に子どもたちの中に卒業を迎える子もいるので、キッチンカーを使って外で集い、その後は状況を見ながら、キッチンカーと小グループに分けた室内でのハッピーハウス活動を再開していくよう計画しています。みんながハッピーとなれる居場所となっていくために……。

ペルー、ボリビア コロナ禍による混乱の なか学校・保育園の事業 を継続



オンラインで堅信の準備をするボリビアのカリタス学園の高校生たち

イエスのカリタス修道女会 リマの聖女ローザ準管区 シスター テレジア 川端 キヌエ

2020年3月上旬に、新型コロナウイルスが南米を侵略して、早くも1年が過ぎました。たくさんの命が犠牲になり、今も多くの方々が痛み、苦しんでいます。

新しい年が始まってすぐ、ペルーとボリビアに、新型コロナウイルス感染の第2波が襲いました。

ボリビアでは、2020年8月15日に管区長に就任したばかりのサレジオ会のJuan Pablo神父様が、2021年3月1日に、新型コロナウイルスの犠牲となりました。その死によって、私たちも悲しみと不安に沈み、新型コロナウイルスの脅威を身近に感じる事となりました。

新型コロナウイルスとの闘いの経験によって、死亡率は抑えられましたが、政治も不安定で、経済は回復せず、多くの問題が山積み状態です。

ペルーではこの第2波の混乱を収束させるために、2月に一部でロックダウンが実施され、そして超高齢者と医療従事者、警察官、軍人を対象にワクチン接種が始まりました。

ボリビアでは2月1日に、ペルーでは3月8日から、一部の地域を除いてオンライン授業で新学期が始まりました。

パンデミックによって、子どもたちの世界に大きな歪みが出ています。ユニセフ協会は、政府の教育への不十分な対応は南米の子どもたちがふさわしい教育を受ける権利を侵害していると警告しています。確かに、オンライン授業の条件が整わない子どもたちは、未就学状態にあります。

小さな売店で、店番をしていた小学校6年生ぐらいの子どもに、「授業はどうしたの」と尋ねると「インターネットがないから、休み」という答えが返ってきました。

修道会経営のペルーのアントニオ・カヴォリ学園とボリビアのカリタス学園でも経営難は続いています。在校生たちが勉学を継続していけるようにと、貧しい家庭への奨学金制度や月謝の納入期間の延長などの支援をしています。また、プラットフォームシステムを導入して、オンライン授業の充実に取り組み、オンラインでの練成会やオラトリオを実施して、キリスト教的養成にも力を入れています。

ペルーのスラム街にあるマリア・タキ保育園では、3月15日からオンライン授業での新学期が始まる予定で、少しずつ入園者も増えてきています。

貧しい地区で、多くの家庭が生活困難な状態にあります。私たちは、教育を通して子どもたちの健全な発育と、貧しい家庭を支えていくことができればと思っています。

ドン・ボスコ基金からいただいた支援は、コロナ禍に飲み込まれず、希望をもって前進するための大きな支えと励ましになりました。ありがとうございました。

皆様の上に、神様の豊かな祝福と加護がありますようにと心からの願いを込めて。

DBKだより 第25号

2021年4月20日

発行人 濱口 秀昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

サレジオ会日本管区本部内

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

Email: dbkinfo@salesians.jp

https://salesio.jp/about/dbk

DBK[ドン・ボスコ基金] にご支援くださった皆様

2020年9月1日～2021年2月28日の間に、DBK[ドン・ボスコ基金]にご寄付して下さった方々です。

匿名の方も含めまして、恩人の皆様からの寛大なご支援とお祈りに、心より感謝申し上げます。

【個人】(敬称略)

RONNIE QUINTARELLI、アギロフリオ・マヌエル、足立 光生、阿部 正子、荒木 由香里、荒牧 ユン、有田 美智子、飯島 美智子、池尾 久美、石突 真理子、伊豆田 正之、伊藤 裕子、伊藤 紀子、稲垣 直明、猪俣 武雄、今福 鈴代、今村 信之、入江 千鶴子、岩切 真紀、岩田 卓三、植田 良子、上田 つや子、梅田 博子、梅原 彰、榎本 世志子、遠藤 昌子、大谷 和功、大橋 弘、大水 健二、大村 睦、岡本 健吾・昌子、小川 由子、小椋 久光、小澤 令、小山田 匡宏、笠岡 一之、勝井 豊、加藤 恭平、加藤 慎次郎、金見 恩美、亀谷 みき古、河川 路代、川尻 達也、川見 里津子、岸本 隼人、倉科 紀美子、藏本 麻里、栗木 幸子、郷古 達也、小林 徹也、佐々木 ちかゑ、佐藤 朝子、佐藤 貴美子、佐藤 雅代、佐藤 麻里、佐藤 香代子、椎原 伊三男、品川 満紀、柴崎 憲子、渋谷 高史、清水 郁子、下里 亘、正司 尚子、杉浦 克子、杉山 信彦、鈴木 誠、住本 恵子、関山 すの、曾根 美香、田内 裕子、高木 信子、高島 正人、高野 仁、高橋 佐和子、高橋 廣見・京子・美里奈・愛、竹村 牧子、田代 和生、田中 禮子、田村 陽子、千原 メイ子・遥、辻村 寛行、ツボウチ メグミ、十河 みゆき、鳥居 孝一、永野 泰三、中村 妙子、中村 ツイ、名護 春子、成田 暁彦、西 秀敏、西ヶ谷 裕子、西澤 千代子、西出 治彦、野口 幸子、波多野 洋子、浜口 俊光、浜崎 祥恵、原之園 容子、日向 育子、平井 隆史、平川 厚子、平松 ケイ子、広川 澄子、福地 直義、藤井 美知代、藤田 満智子、藤原 礼子、二村 文子、古木 裕行、前田 太、前田 安雄、正岡 武人、松田 宏紀、松田 律子、松原 久美子、三上 茂、三崎 つゆ子、水谷 義晴・とし子、三田 一博、宮澤 正・香織、三好 明子、森田 善和、八木下 泰博、柳川 智美、山家 信雄、山下 由夏、山下 多鶴子、山田 美恵、山本 朋弥、吉田 邦利、吉武 尚子、吉田 紀子、吉野 篤、与曾田 一雄、和田 位、和田 恵美子、和田 静、渡部 裕子

【団体】(敬称略)

イエスのカリタス修道女会、イエスのカリタス修道女会管区本部、大分明星幼稚園、学校法人調布星美学園、カトリック・コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会、カトリック鷺沼教会古着プロジェクト、カトリック東仙台教会海外協力会、カトリック由比が浜教会婦人部、カリタス学園、カルメル会修道院、(株)関西建物、サレジオ・シスターズ世田谷修道院、サレジオ・シスターズ玉造修道院、サレジオ・シスターズマンマ・マルゲリータ修道院、サレジオ・シスターズ大村修道院、サレジオ・シスターズ浜松修道院、サレジオ・シスターズ別府修道院、サレジオ・シスターズ目黒修道院、サレジオ学院幼稚園、静岡サレジオ小学校、シトー会那須の聖母修道院、城星学園中学校・高等学校、城星学園幼稚園、城星学園小学校児童会マルゲリータ会、聖ドミニコ宣教師修道女会東京修道院、星美学園短期大学同窓会ウニオーネ短大、星美学園幼稚園、福音史家聖ヨハネ布教修道会、ボスコワールド代表松田康子、都城聖ドミニコ学園幼稚園父母会、目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園中学・高等学校、目黒星美学園小学校、有限会社 正英、児童養護施設光の園施設長松永忠

【匿名の方】 66件

DBK[ドン・ボスコ基金] へのご支援とお祈りを、今後ともよろしくお願いいたします。



DBK[ドン・ボスコ基金] は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替口座名: ドン・ボスコ基金
口座番号: 00190-5-292253

●他の金融機関からお振込みの場合

金融機関: ゆうちょ銀行 店名: 〇一九 (ゼロイチキョウ)
預金種類: 当座預金 口座番号: 0292253

*寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(のチェックマーク)を
ご記入ください。



恩人の皆様と支援先の方々のためにミサを
ささげるDBKスタッフ